



学校法人永原学園
さんこう
児童クラブ通信
令和6年5月発行
— 第2号 —

【三光幼稚園】
TEL：0952-31-0753
【さんこう児童クラブ携帯】
TEL：090-7430-1312

“ほめほめタイム”

標記については、神野小学校の入学式で校長先生が参加者に丁寧に説明して下さいました。

発達の著しい乳幼児でも、褒めることによって気分を直し落ち着いてきます。小学生以上になると日常生活ではできることが当たり前になって、ついで、できないことの方へ注目がいってしまいます。「なるほど、そうだなあ」と自らの子ども達への接し方を振り返りました。

3学年満員になった児童クラブに足を運んで様子をみると、外でダイナミックにドッジボールやサッカーを楽しむ子、庭で草花や蝶々を観察して静けさを楽しむ子、そして、宿題に根気よく取り組んでいる子など、それぞれが支援員の見守りの中、過ごしていました。幼稚園に弟妹がいる兄妹児に「字がとってもきれいに書けてるね♥」と褒めると、照れくさそうに下を向いてしまったのですが、その日はとても機嫌よく過ごしていたと聞きました。また、ある子には、“1年生のお世話ありがとね〜♥”と伝えると、“うん”と笑顔を返してくれました。小さなことでも、気持ちを伝えることの意味を再確認しました。

“ほめほめタイム” 家庭でもぜひ実行しましょう！

【どんな気持ちかな??】
学年が違う友達とも仲良くなってきて、自分たちで遊びを進めることもできるようになってきています。

その中で、子どもたちと頑張っていきたいことは、「言葉遣い」です。子どもたちが、相手が傷つくとわかっていながら、つい使ってしまう言葉があります。例えば、「死ぬ」「だまれ」等です。そのような過激な言葉を使う子どもにとっては、特に深い意味をもたず、癖付いたように発している印象です。「どうして言うてはいけないのか」という社会性からの観点は次の段階。まずは、「自分はどんな思いだったのか」「何が嫌で言うてしまったのか」を考え、自分の思いと向き合うことが、今の子どもたちにとっては一番大切であると考え関わっています。自分を見つめ、一緒に考える時間を作っているところです。

困っている人がいると、思いやる気持ちをもっている優しい子どもたち。葛藤や悔しさを抱えているときも、その表現方法を変えていけるように、今後も子どもの思いに寄り添いながら関わっていけたらと思います。

お忙し中とは思いますが、ご家庭でもぜひ、お子様と一緒に考え合っただけたらと思います。その際、具体的な表現を用いていただくと子どもの実践に繋がるかと思しますので、ご協力、よろしくお願いいたします。ご家庭と児童クラブ両方で子どもの心の成長を促せたらと思っています(〇〇)

職員自身も再度、自分の立ち振る舞いを見つめ直し、気を付けていきたいところです。



かっこいい姿☆

学年を超えて
これからも、
いっぱい遊ぼう♪

1年生もどんどん
馴染んでいます♡

4月の学童児童数

	4月末 在籍数	5月 新規人数	5月 退所人数	5月 初日人数
1年生	6	0	0	6
2年生	13	0	0	13
3年生	12	0	0	12
計	31	0	0	31

5月の目標

「整理整頓をする」

ロッカーの中の荷物を綺麗に入れたり、自分の物の管理がじぶんでできるように頑張りたいです！大切なものを失くさないようにするためにも、ランドセルの中にしめったり、衣服を畳んで入れたりする習慣を身に付けてほしいです♪

「 時には親子で耳を澄まして、音を聴いてみましょう 」

西九州大学子ども学科 教授 櫻井琴音

今回は、音楽活動の基盤ともいえる「聴く活動」についてお話してみることになります。例えばピアノ教室へ通うようになると、楽譜の読み方や指の動かし方等の基礎を学び始め、次第に強弱や速度などの音楽要素に気を配り、曲想豊かに表現することを学んでいきます。表現するには耳を澄まして音を聴き、音への気づきを得ることが不可欠なのですが、実は身の回りの音の傾聴による音楽教育もあるのです。

サウンドスケープという言葉に耳にしたことはおありでしょうか。これは音の環境、あるいは音の風景と訳されており、1960年代にカナダの作曲家で音楽教育家のR. マリー・シェーファーが提唱しました。その場に響いている固有の音や自然界の音も含めた音の環境のことで、景観を意味するサウンドスケープに対する造語です。風景には音が欠かせないという考え方で、きこえてくる音だけでなく、それを生み出している環境や、そこで生活している人々との関係性も含まれる概念です。このようなサウンドスケープの考え方に基づき、身近な環境に耳を傾けて聴く技術を向上させるための教育を、サウンド・エデュケーションと呼んでいます。ここでは、シェーファーが著した子ども向けのワークブック『音さがしの本リトル・サウンドエデュケーション』に掲載されている100のサウンドワークの一部をご紹介しますから親子で体験してみてください。

1. ほんの少しの間、すごく静かに座ってみよう。そして耳をすましてみよう。今度は紙に、聴こえた音を全部書き出してみよう。

2. 音を全然立てずに、立ち上がれるかな？ どうやったらパッとできるか考えてみよう。それから試してみよう。

3. 紙を一枚持ってきて、音を全然立てないように、その紙を部屋にいる皆で回してみよう。

4. 一枚の紙を楽器だと思ってみよう。みんなが、それぞれ違った音をつくらなければならない。紙を折ったり、息を吹きかけたり、落としたり、ちぎったり、他にどんなことができるかな。ただし、最後まで丸めないように。

5. 「音のかくれんぼ」をやったことがあるかな？ 時計とかラジオとか、何かずっと音がするものを持ってきて、家のどこかに隠そう。それから耳だけを頼りにして、それがどこにあるのか探してみよう。

耳を澄ますことによって得られる音への気づきは、子どもだけでなく、大人にとってもハッとするような体験をもたらします。試してみてください。